

(5) ①積土のう工 (前5段、後3段積み)



■目的

洪水によって堤防が沈下した場合や増水する速さが著しく、水が堤防を越えるおそれがあるときに用います。

水防工法の中で最も基本となる重要な工法です。この工法は、越流水深に応じて、3段積み、4段積み、5段積みがあります。

■作業手順

①土のうの積み方

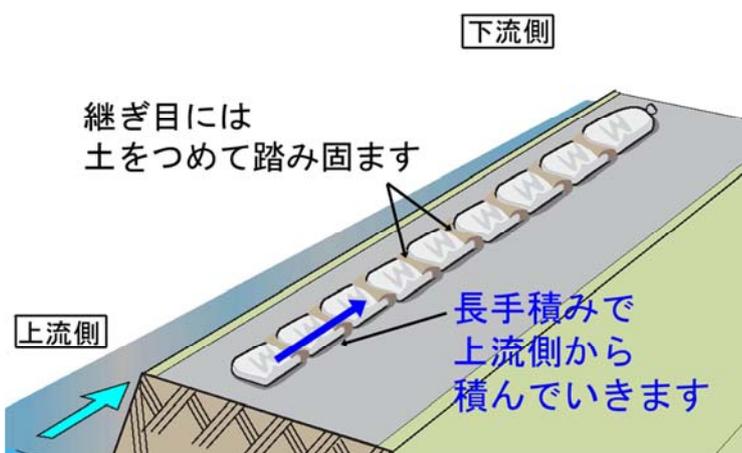
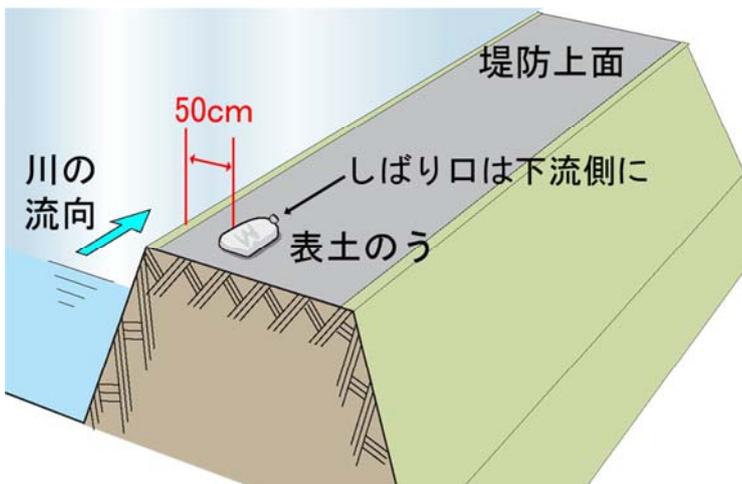
土のうは前5段、後3段積みとします。

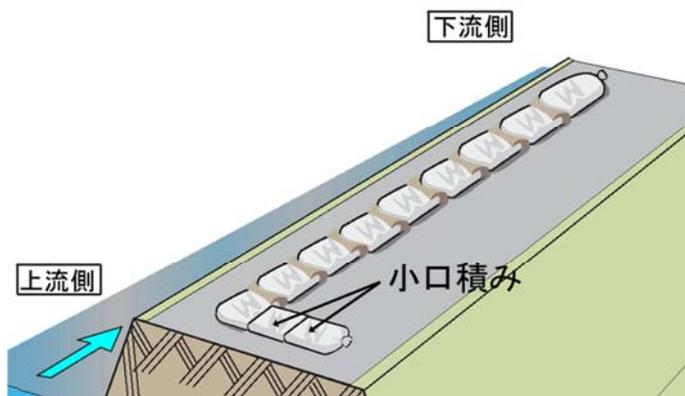
②表土のう1段目

まず表土のうを並べます。堤防上面の川側の肩から、50cm程度後退したところに、土のうを水の流に平行に上流側から長手積みに並べます。

土のうのしばり口は下流に向け、その上に隣の土のうを重ねます。

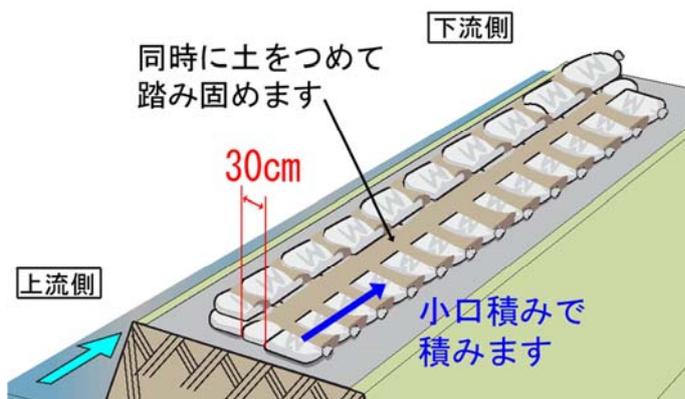
そして、継ぎ目には土をつめて踏み固めます。





③控え土のう 1 段目

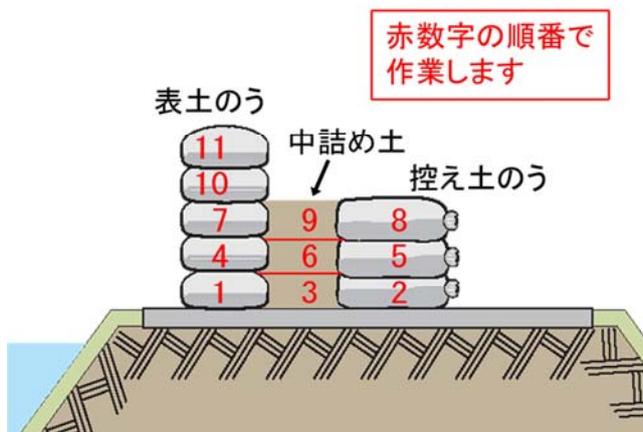
後ろに控え土のうを積みます。1 段目の並べ方は、土のうのしぼり口を居住側に向けて、前列の表土のうから 30 cm あけて小口積みに並べます。



以下、④⑤⑥は並行して行います。

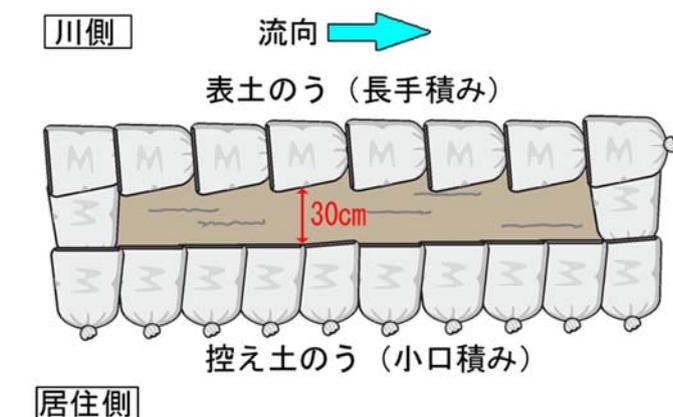
④表土のう 2～5 段目

表土のうの 2～5 段目を積みます。2～5 段目は互い違いに積み上げます。1 段目と同様に、土のうの継ぎ目には土をつめて、よく踏み固めます。



⑤控え土のう 2～3 段目

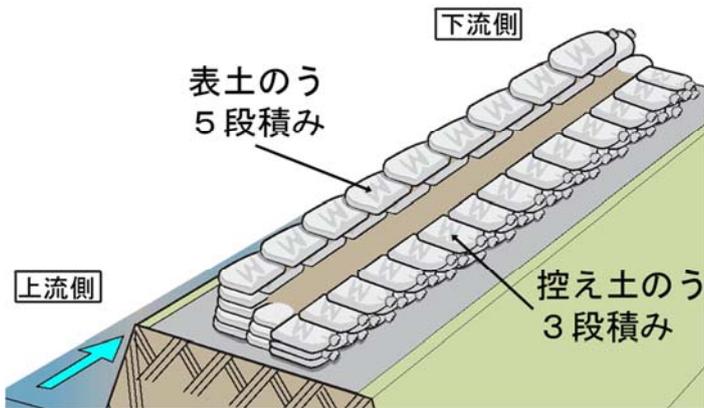
控え土のうの 2、3 段目は、1 段目の継ぎ目の上に土のうを互い違いに積み上げます。継ぎ目には土をつめて、よく踏み固めます。



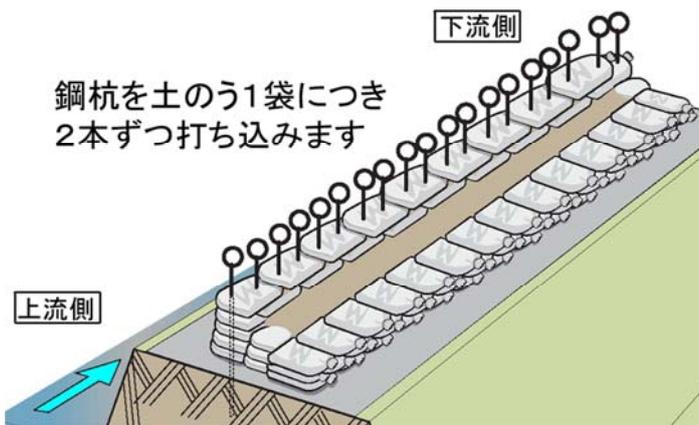
⑥中詰め土の間詰め

土のう積み作業と平行して、30 cm 程度あけたところには、土をつめてよく踏み固めます。

中詰め土の両端も土がこぼれないように、小口積みでふさぎます。



土のう積みは前5段、後3段積みとします。



⑦鋼杭の打ち込み

前5段の表土のうを積み終えたところから、鋼杭を土のう1袋につき2本ずつ打ち込みます。



完成図

●積土のう工数量表（1組10m当たり）

人員	資 材				器 具		
	名 称	形 状 寸 法	単 位	員 数	名 称	単 位	員 数
20人	土のう		袋	300	一輪車	台	3
	鋼杭	φ16mm×長さ1.2m	本	60	スコップ	丁	4
	土砂	(土のう用及び中詰め土)	m ³	5.5	掛矢(土羽板代わりに使用)	丁	2
					大型ハンマー	丁	2